

令和2年度 地域自立支援協議会交流会

当事者が「語る」ことを「聴く」には？

～テーマを選んだ理由～

東京都自立支援協議会 副会長

自立生活センターSTEPえどがわ

曾田 夏記

① 各地の自立支援協議会で、起きていること

○ 知的障害のある委員から、協議会について届いた言葉

「会議が難しかった。どんどん進んでしまい、わからなかった。」

「自分が止めると進まなくなるから、自分には難しいと思った。」

「わたしがこの会議にいる意味がわからなかった。」

⇒ 誰でも、辞めたくなくて、当たり前



② 自立支援協議会は、どう応えているか？

○ 区市町村へのアンケート(動向集)

「さまざまな障害のある委員が参加するにあたり、取り組んでいることは？」

<回答>

- 点字資料の手配、手話通訳の手配
- 大型電動車いすでも入れる席のスペースを確保
- 資料へのルビふり など



↑ 何のために、これら(合理的配慮)をするのか？

これらは、障害のある人が、障害のない人と同じスタートラインに立つために、最低限必要なこと

③ 自立支援協議会に「ないもの」は何か？

「点字資料つくらなきゃ！」「ルビをふらなきゃ！」の前に・・・

- ・「あの人の声を聴きたい」「あの人の意見を知りたい」という心からの気持ちがあるか？

- ・「当事者の声が反映される協議会」 ⇒
「当事者の『語り』を『聴く』協議会」というテーマに



☺ 小田島さん&みんなの語りを聴いて、何を想うか、何を持ち帰れるか